

令和7年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	集落の存続に向けた地域づくり事業
事業主体 (連絡先)	東部活性化協議会 (090-8004-7765)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,967,496 円 (うち支援金: 3,537,000円)

事業内容

少子・高齢化に伴い過疎化が進み、10年後の集落の存続が危ぶまれていることから、体験交流会等を通じ、関係人口の構築を図ると共に、情報交換会により地域で活躍していただける人材の掘り起こしと活動の拠点施設の整備を実施。

- ・田植え体験交流会 6月7～8日 参加者6名
- ・稲刈り体験交流会 10月4～5日 参加者9名
- ・イノベーションキャンプ リモート会議 2回
- 講演・情報交換 8月17～19日 講師他4名
- ・交流拠点施設の整備 6月9日～11月17日
- 畳表替え・襖張替え・エアコン設置・屋根塗装等



【田植え体験の様子】

【目標・ねらい】

- ① 交流人口の拡大
- ② 情報交換の実施
- ③ 活動拠点の整備

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①2回の体験交流会の実施により、15名の参加者があり、地域住民とのコミュニケーションが図られた。
- ②大学の教授を講師に迎え、4名の学生と共に社会情勢や地域の課題や解決策について意見交換がなされ、今後も継続的に実施することで、人材の育成・確保が期待される。
- ③交流拠点施設の整備により、交流イベントの参加時のみならず、年間を通じた自然体験ができる基礎的な環境が整備され、より一層の関係人口の拡大が見込まれる。

※自己評価 【 C 】

【理由】

- ・イベント交流の参加者が予定よりも5名少なかった。
- ・天候に対応した体験メニューの充実が必要である。
- ・拠点施設の更なる整備・充実が必要である。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

拠点施設の充実を図りながら、冬場のイベントを通じて関係人口の創出・拡大を図り、地域住民との交流を促進して地域の賑わいを取り戻していく。

また、社会情勢や地域の課題等の情報交換を継続的に行いながら、地域おこし協力隊等の人材確保に努めていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある